

# ないたスリッパ 【低学年4 - (1)】

## 資料の提示方法を工夫した指導

- (1) 主題名 みんながつかうもの [4 - (1)]  
 (2) ねらい みんなが使うものを大切にし、約束やきまりを守ろうとする態度を養う。  
 (3) 資料名 「ないたスリッパ」  
 (4) 授業の展開例

	学習活動	主な発問と児童の心の動き	指導上の留意点
導入	1 題名読みをする。	どんなお話かな。	本時の学習の方向付けをし、期待感をもたせる。
展開	2 資料「ないたスリッパ」を聞き、話し合う。	<p>スリッパはどうしてないたのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・はねとばされて、いたかったから。</li> <li>・きれいにそろえてくれなかつたから。</li> <li>・かたほうのスリッパとはなれたから。</li> </ul> <p>くまさんたちに言いたいことを言おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スリッパはちゃんとそろえんといけないよ。</li> <li>・つぎに来た人がこまるからそろえるんよ。</li> <li>・ていねいにはくんよ。</li> </ul>	<p>絵を動かしながら、内容をつかませる。</p> <p>スリッパの思いが話せるように吹き出しにする。</p> <p>どうぶつの絵に向かって、話をさせる。</p>
開拓	3 自分たちの生活を振り返る。	<p>わたしたちの学級でも、ないている物はないかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ぼくは、ボールを使ったあと、外に放りっぱなしにしたことがあるよ。</li> <li>・ぼくは、いけないなと思ったけど、だれかがかたづけてくれるだろうと思って、知らんぷりしたことがあるよ。</li> <li>・これからきをつけたいよ。</li> </ul>	<p>かたづけたり、次に使う人のことを考えて行動できなかつたりした経験があることに気付かせる。</p> <p>きちんとかたづけると、気持ちがよくなることに気付かせる。</p>
終末	4 教師の話を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなでつかうものをたいせつにしないといけないね。</li> </ul>	はきものをそろえない、はずかしい思いをした話をし、意欲付けをする。

## ないたスリッパ

もりのなかに、どうぶつたちのがつこうがありました。二じかんめのべんきょうがおわって、あそびじかんになりました。みんなはやくあそびたくてたまりません。

きつねさんが、トイレにかけこみました。でていきました。（スリッパのむきがはんたいで、はなれています。）

こんどは、うさぎさんです。でていきました。（スリッパのかたほうがひつくりかえったままです。）

くまさんもやつてきました。でていきました。（スリッパがななめになっています。）

すこしたつて、たぬきさんがやつてきました。

「あれっ。スリッパがばらばらだ。どれにしようかな。よし。」

あわててでていきました。（スリッパはあっちにポーン、こっちにポー

ン。）

トイレがしづかになりました。  
「あ～ん、あ～ん。かなしいよう。」

トイレのスリッパがなきだしました。

\* ここはトイレの様子  
(手書きです)

教師の語りで資料提示をし、動物の出入りに合わせてスリッパを操作します。

# 活用に生かすための実践報告

「ないた スリッパ」

## 1 主題の設定

明るく気持ちのよい学校生活を送るためにには、みんなで使う物を大切に扱い、決まりや約束事を守るように心がけなければならない。自分だけよければよいといった自己中心的な考え方では、集団生活をしていく上において、他人に迷惑をかけ、不快感を与えててしまうことになる。

人と人が互いに気持ちよく生活していくことができるよう、みんなで使う物を大切に扱い、きまりや約束事をすんで守ろうとする態度を養うことがねらいである。

## 2 指導過程の工夫

教師の語りで登場人物（森の動物・スリッパ）の絵を動かし、話の内容を子どもたちに理解しやすくしていきたい。絵の提示は、エプロンシアター的にエプロンから取り出すようにして、子どもたちの資料に対する興味づけを図りたい。

森の動物たちの行動をしっかり批判させたあと、自分たちの学級でもないている物はないかと考えさせ、現実の自分たちの姿を見つめさせたい。

できるだけ子どもたちと対話しながら授業を進めていくために、板書はキーワードとなる言葉を簡潔にまとめていくようしたい。

## 3 発問の工夫

発問においては、スリッパの気持ちを考えたり、第三者的な立場から批判をしたりすることを十分にさせることで、自己と対峙することができると考え、「くまさんたちに言いたいことを言おう。」を

心発問とした。

## 4 児童の反応

（スリッパはどうしてないたのだろう。）

- ・やさしくしてほしいなあ。
- ・ひっくり返ると、くるしいよう。

（くまさんたちに言おう。）

- ・みんな、スリッパを散らかしたらいけないよ。
- ・バラバラになったら、次にはく人が困るよ。

・ちゃんとそろえないといけないよ。

（学級でもないている物はないかな。）

- ・学級のボールが、外に放ったままになっていることがあるよ。
- ・えんぴつけずりのけずりかすが、いっぱいいたままになっていることがあるよ。
- ・ぼくはきちんととかたづけているよ。
- ・こんど気がついたらかたづけるよ。

## 5 実践者からの一言

低学年の子どもたちに資料の内容を的確に理解させるために、簡略化した資料を作成することで、子どもたちはねらいに沿って話の内容を理解したように思う。森の動物たちの行動をしっかり批判させ、その後、自分たちの学級でもないている物はないかと考えさせた時、子どもたちはハッとして目を見開き、沈黙した。自己と対峙した一瞬である。そしてその後の「あそびたかったから。」「他の人がかたづけてくれると思ったから。」という発言を肯定的に受け止めることで、より内面をしっかりと見つめさせることができたよう思う。

（黒川小学校 荒谷 誠）